

# 子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

J P 子どもの森づくり運動  
参加園月例会報  
(2022年4月号)

〒146-0082 東京都大田区池上1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081  
https://www.kodomono-mori.net mailto:info@kodomono-mori.net

「J P 子どもの森づくり運動」とご縁をさせていただいた方々に、  
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



新年度となり、今年も子どもの森づくり活動が始まります。

新型コロナウイルスがまだまだ油断できない状況ですが、J P 子どもの森づくり運動では、  
これからも参加園の自然・環境体験活動をせいいっぱいサポートさせていただこうと思います。

今年度もよろしく願い申し上げます。

今月の写真は、今春一番の活動として行われた岩手県宮古市での植樹活動です。

「東北復興グリーンウェイブ」の植樹フィールドが、また広がりました。

(目次)

1. J P 子どもの森づくり運動 2022年度活動計画
2. リレーエッセイ (2022年4月号)
3. 事務局からのお知らせ

## ■「J P 子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P 子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

## ■「J P 子どもの森づくり運動」運営体制

・運 営 : NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）

・特別協賛 : 日本郵政グループ

・主な後援/協力/連携団体

(公社)全国私立保育連盟

NPO法人 富良野自然塾

(公社)大谷保育協会

(公社)こども環境学会

保育環境研究所ギビングツリー

国際校庭園庭連合日本支部

(公社)国土緑化推進機構

(一社)日本森林インストラクター協会



## 1. JP子どもの森づくり運動 2022年度活動計画

今月号の子森通信では、2022年度に計画されている主な活動の予定をご案内します。「東北復興グリーンウェイ2022」の活動予定や保育者サポート活動である三つの活動、自然・環境体験活動、園庭緑化運動、保育防災講座の今年度の活動概要をご案内します。ご参照いただければ幸いです。

### 1) 「東北復興グリーンウェイ」2022

実施日	活動フィールド	参加園	主な活動内容
2022年 4月25日(月) 【活動終了】	岩手県宮古市 「うみどり公園」 及び「運動公園」	あかまえこども園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「うみどり公園」と「運動公園」に、あかまえこども園の子どもたちがどんぐりの苗木を植えました。</li> <li>●チェンソーカービング世界チャンピオン栗田宏武氏によるカービングデモを実施。</li> </ul>
2022年5月	全国	「東北復興グリーンウェイ」 参加園	東北の苗木を見送る活動が全国で実施され、岩手県大槌町「つつみこども園」に、東北のどんぐりの苗木が届きます。
2022年 5月23日(月)	岩手県大槌町苗畑	あかまえこども園 とよまねこども園 山田町第一保育所 織笠保育園 つつみこども園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●岩手県の植樹フィールドが宮古市、山田町、大槌町に広がったことを受け、今年の大槌町での植樹活動は三つの地域合同で行います。</li> <li>●宮古市、山田町の子どもたちは、復興のシンボルである「三陸鉄道」特別臨時列車「どんぐり列車」で大槌町に移動します。</li> </ul>
2022年秋	福島県伊達市	伊達こども園	園庭にどんぐりの森を作るための植樹会を予定。

### 2) 自然・環境体験講座2022

幼児(少)期の自然体験と環境学習(教育)活動は、国民的なSDGsへの関心の高まりを背景に保育・幼児教育にとってますます重要な活動となっています。感染症対応が継続されている状況ですが、今年度も、オンライン企画も含めて活動を積極的に展開したいと思います。

#### ① オンライン夏期集中講座

昨年度に続き、保育・幼児教育をけん引してこられた先達にお願いして、幼児(少)期の自然・環境体験の意義や方法についてお話しいただく**オンライン夏期集中講座**を開催します。講師は、**北海道教育大学教育学部岩見沢校 教授 能條 歩先生**、**こども環境学会 代表理事 仙田 満先生**、**新宿せいが子ども園 園長 藤森平司先生**というビッグネームにお願いしました。いずれも、JP子どもの森づくり運動と深いご縁をつくらせていただいている方々です。詳細は、次月号でご案内します。

#### ② 自然・環境体験講座全国キャラバン2022

現役の保育士世代は、自然体験の原体験が少なく、自然の中での体験活動がうまくリードできないケースがあります。そんな保育者を対象に、インストラクターが参加園まで出向き、森づくりプログラムと共に、ネイチャーゲーム等、森や広場での実践的な自然・環境体験講座を指導します。新型コロナ感染症がまだ改善されていない状況を踏まえて、原則として今年度後半からの活動とさせていただきます。詳細はあらためてご案内します。

#### ③ どんぐりSDGs劇団

トータルエンターテインメントであるお芝居の力によって、幼児(少)期の子どもたちに、SDGsの心を体感してもらうために2021年度結成された劇団です。2022度は、「自然・環境体験全国キャラバン」と連動して、全国キャラバンを実施します。



### 3) 園庭緑化運動2022

「園庭緑化運動」は、園庭を、単なる運動だけの場ではなく、子どもたちの多様な自然や環境の体験フィールドとして緑化、改善していくという運動です。2020年度より、国際校庭園庭日本支部 代表 仙田 考氏を講師に迎え、都市型、郊外型、田園型の典型的な立地にある三つのモデル園において、モデル活動を継続しています。いろいろ貴重な事例が積み重なってまいりましたので、この度、冊子「園庭に木を植える」にとりまとめ、全参加園に提供します。2022年度は、これまでのモデル園活動を継続しつつ、園庭緑化のすそ野を広げることを目的とするオンライン講座を二つ、企画しました。受講者募集については、次月号にてご案内します。

#### ①多様な園庭緑化を学ぶオンライン講座（国際校庭園庭連合日本支部共催企画）

##### ★2022年6月講座

田園調布学園大学大学院 人間学研究科 子ども人間学専攻 准教授

国際校庭園庭連合日本支部 代表 仙田 考（せんだ こう）先生

\* 仙田先生には、すべての講座にコーディネーターとしてご参加いただけます。

##### ★2022年8月講座

むぎの穂保育園 園長 出原 大（いずはら だい）先生

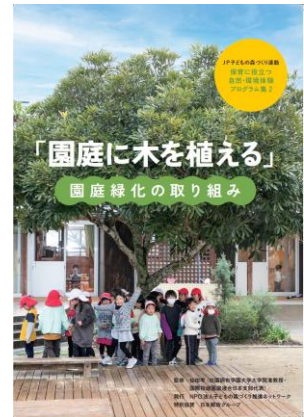
##### ★2022年10月講座

横浜市立大学大学院 都市社会文化研究科 都市社会文化専攻 教授

三輪 律江先生（みわ のりえ）先生

##### ★2022年12月講座

（公財）日本生態系協会 教育研究センター センター長 田邊 龍太（たなべ りゅうた）氏



「園庭緑化運動」冊子  
園庭に木を植える

#### ②園庭緑化、なんでも相談講座

「園庭緑化運動」コーディネーターの仙田考先生による、園庭緑化（改善）活動についてのオンラインQ&A講座です。

### 4) 保育防災認定講座2022

多くの幼児(少)期の子どもたちを預かっている保育施設では、通常の防災対策は通用しません。実効性のある対策としては、それぞれの施設に、いわゆる「保育防災リーダー」を配置し、リーダーが中心になって、園全体で施設オリジナルの防災の仕組みづくりと防災意識を高めることに取り組むことでしか実現できません。その考え方のもと、2021年4月から、オンラインによる「保育防災アクションマイスター認定講座」を開始し、2022年2月には、保育防災マイスター認証者 1期生17名、認定園が11園が輩出されました。保育防災は、子どもの命を守る重要な活動です。2022年度も、保育防災リーダー養成の活動を継続します。

#### ①「保育防災アクションマイスター認定講座」の継続

保育防災は、保育におけるもっとも重要な活動です。2021年度につづき、2022年度も認定講座を継続し、保育防災アクションマイスター二期生の養成に取り組みます。

#### ②保育防災ネットワークづくり

保育防災の活動は、防災リーダーを配置することで終わりではなく、そこから始まります。J P 子どもの森づくり運動では、マイスター1期生を中心に、「保育防災アクションマイスター連絡会」を設立し、各園における不断の保育防災活動の情報共有やサポート、さらに、災害時の支援活動を実施します。

#### ③冊子づくり

J P 子どもの森づくり運動における保育認定講座の普及を目的に、2021年度末を目標に、2年間の活動を取りまとめた冊子を作成し、全参加園、及び関係者に配布します。



「保育防災アクションマイスター」  
認定バッジ

## 2. リレーエッセイ (2022年4月号)

リレーエッセイ2022年度の新シリーズをお送りします。今年度は、幼児(少)期の環境教育をテーマに、北海道教育大学 教育学部 岩見沢校 アウトドア・ライフコース 教授 能條 歩 (あゆむ) 先生による連載を、1年間、12回に渡ってお送りします。これから持続可能な時代を生きていく子どもたちにとって、環境教育はとても重要な幼児教育です。1年間かけて共に考えましょう。

自然体験とはどのような体験か～自然とは？～

北海道教育大学 教育学部岩見沢校 アウトドア・ライフコース 教授 能條 歩



自然保育・自然体験・自然保護…。よく見かける言葉ではありますが、あらためて「自然とは何？」と考えると、答えはなかなか難しいのではないのでしょうか。

私は何かの意味や意義を考えると、すぐに答えを見つけづらい時は、反対語を考えてみることにしています。「自然」の反対語は「人工」ですよね。「人工」といえば、解剖学者の養老孟司さんが、「都市はヒトの脳が作り出した人工空間だから、ヒトが作り出したモノしか置いていない」というようなことをいくつかの著書の中で述べていたことが思い出されます。脳が作り出す空間は「ああすればこうなる」、すなわち「コントロール可能」と思う空間ですから、逆に考えれば「自然」という空間は「ああしてもこうならない(コントロール不可能)」な所ということになります。ということは、コントロール不可能な部分のある場所こそ「自然●●」ができるということになるのではないのでしょうか。そうであれば、私たちは「コントロール不可能な要素のある場所で行うことが「自然●●」ということを意識する必要がありそうです。

「コントロール不可能な要素」には予期できないことも多いため、それが恐怖や畏れにつながることもあるかもしれません。しかし一方では、予期できず思いがけないことが驚きを伴い、それにより多くの感動が生み出されることも私たちは知っています。つまり、「コントロール不可能」な場であるからこそセンス・オブ・ワンダーが生まれるのです。



「人工」の空間は、ヒトにとって不都合なものが排除されたところですが、逆に私たちが子どもの育ちにとって大切だと考えている「自然」は、意にそぐわないこともあるし、予期しないことも起きる場所。こどもたちが「自然について学ぶ」あるいは「自然を通して学ぶ」ために、そういう場所を用意することが私たちの役目なのではないのでしょうか。「ああすればこうなる」という経験だけでは、世界の全てを解ったつもりになってしまい、そうした驕りの果てに環境問題が発現したことを、私たち大人は忘れてはいけないと思います。

### 【筆者近況】

今回の冬はとても雪が多く、雪かきには難渋しましたが、ようやく北海道にも春が来ています。ただ、桜の見頃はもう少し先のようです。

私の職場では季節を問わず学生と一緒に自然の中で人と自然の関わりを考えていますが、実は座学も結構あります。私は主に環境教育・環境問題・教職論・自然科学・社会教育などです。(＊写真：筆者近影)



## 3. 事務局からのお知らせ

J P 子どもの森づくり運動参加園には、本会報と同封で、「園庭緑化運動」2年間の活動をとりまとめた冊子「園庭に木を植える」をお送りします。現在、園庭緑化(改善)に取り組んでおられる園、これから取り組まれる園の参考になれば幸いです。この場をお借りして、本冊子の制作にご協力いただきました方々にあらためて御礼申し上げます。